

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年3月10日(2005.3.10)

【公表番号】特表2000-517220(P2000-517220A)

【公表日】平成12年12月26日(2000.12.26)

【出願番号】特願平10-512044

【国際特許分類第7版】

A 4 7 C 7/46

B 6 0 N 2/22

【F I】

A 4 7 C 7/46

B 6 0 N 2/22

【手続補正書】

【提出日】平成16年6月10日(2004.6.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年6月10日

特許庁長官 今井 康夫 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第512044号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 ヘンダーソンズ・インダストリーズ・ピーティワイ・
リミテッド

3. 代 理 人

住 所 〒107 0052 東京都港区赤坂1丁目9番15号

日 本 自 転 車 会 館

氏 名 (6078) 弁理士 小田島 平 吉

電 話 3585-2256

4. 補正命令の日付 なし

5. 補正の対象

請求の範囲、明細書、及び図面

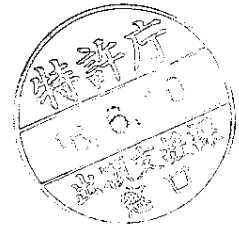
6. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙のとおりに訂正する。

(2) 明細書第11頁第16行、第11頁第18行、及び第11頁第
19行に「線25」とあるのを、『線L』に訂正する。

(3) 図3及び4を別紙のとおりに訂正する。

以上



別紙

請求の範囲

『 1. 座席の背もたれに使用する腰椎支持具において、第 1 の端と第 2 の端を有する長尺の帯と前記両端間に位置する負荷支持前面とを具備し、各前記端は前記背もたれの両側の対応する一方に接続可能であって、使用中には両側の間に帯が伸長し、更に前記帯に接続され帯の長さ方向の張力を変化させるために作動し得る駆動手段を具備し、前記負荷支持前面が少なくとも前記長さ方向の張力が比較的弱い時には前記両端間に後ろ向きの湾曲を有し；更に前記第 1 および第 2 の端の間に位置する複数の襷を具備し、各襷は前記帯の一部をなし、前記長さ方向の張力の変化に対応して開閉し、それにより前記後ろ向きの湾曲を変化させる腰椎支持具。

2. 前記帯は、前記第 1 および第 2 の端の間に伸長する紐状部材と、紐状部材の前面の少なくとも一部を覆い、前記襷を含む保護部材とを含む請求項 1 による腰椎支持具。

3. 前記襷の各々は前面を有し、前記襷の前面は結合して帯の前記負荷支持前面を形成する請求項 2 による腰椎支持具。

4. 前記襷の各々は前記帯の長さ方向に幅を、前記保護部材の前後方向に深さを有し、前記襷の各々の幅は前記張力の増加に対応して減少し、それにより前記深さを増大させる請求項 2 又は 3 による腰椎支持具。

5. 前記紐状部材は少なくとも前記張力が比較的低い時に両端間に、前記張力の増加とともに減少する後ろ向きの湾曲を有し、前記不可視地面の後ろ向き湾曲の変化は、前記襷深さの変化及び前記比も丈夫材の後ろ向き湾曲の変化の影響が結合して生じる請求項 4 による腰椎支持具。

6. 前記紐状部材と前記保護部材の各々は、前記帯の第 1 端に隣接する第 1 の端と前記帯の第 2 反に隣接する第 2 の端を有し、保護部材の前記第 2 の端は、前記帯の縦軸に概して平行な少なくとも 1 方向にて紐状部材に対する動きを抑制されるように前記紐状部材に接続され、前記紐

状部材の第 1 の端は前記 1 方向又はそれと反対の 1 方向にて前記保護材の第 1 の端に対して移動可能である請求項 2 ないし 5 のいずれかによる腰椎支持具。

7. 搭載手段が帯の前記端の各々に設けられ、前記帯の対応する前記端を背もたれの対応する前記側方に接続するように作動可能であり、紐状部材の前記第 2 の端が帯の前記第 2 の端にて搭載手段に取り付けられ、前記駆動手段と保護部材の前記第 1 の端は、帯の前記第 1 の端において搭載手段に取り付けられ、前記駆動手段は紐状部材の前記第 1 の端に接続されて前記紐状部材の該第 1 の端を前記第 1 端搭載手段に対して動かすように作動可能である請求項 6 による腰椎支持具。

8. 前記駆動手段は前記第 1 端に取り付けられた電動機と、電動機の作動に対応して回転するように前記電動機に作動可能に接続されたねじ溝付きスピンドルを含み、前記スピンドルはその回転軸が概して前記帯の長さ方向に向き、かつ前記電動機の軸に交差し、前記スピンドルは前記紐状部材の第 1 の端に接続されて、前記紐状部材の該第 1 の端が前記スピンドルの回転に対応して隣接する前記搭載手段に対して移動する請求項 7 による腰椎支持具。

9. 前記襷の各々は前記帯の長さ方向に幅を、前記支持具の前後方向に深さを有し、前記襷の各々の幅は前記張力の増加に対応して減少し、それにより前記深さを増大させる請求項 1 による腰椎支持具。

10. 前記帯は前記帯の長さ方向に間隔を置いて配置された複数の比較的剛性の高い要素を含み、隣接する 2 個ずつの要素の間に少なくとも 1 個の前記襷があつて、両者を互いに接続する請求項 1 又は 9 による腰椎支持具。

11. 前記襷の各々は前面を有し、前記襷の前面は結合して帯の前記負荷支持前面を形成する請求項 10 による腰椎支持具。

12. 前記要素の各々は、その縦軸が前記帯の縦軸に交差する長尺部材である請求項 10 又は 11 による腰椎支持具。

13. 前記要素の各々は、前壁と、前壁に接続され前記帯の長さ方向

に間隔を置いた側壁２面を有する空洞の部材である請求項１２による腰椎支持具。

１４．前記前壁は要素の前面が凸湾曲を有するように要素の縦軸の方向に湾曲し、前記前壁湾曲は同要素の両端の間において最大の前方前方突起を有する請求項１３による腰椎支持具。

１５．前記要素の各々の各端に延長片が配置され、前記延長片の各々は該要素のそれぞれの隣接端を超えて延長し、概して前記帯の長さ方向に延びる軸を中心に該要素に対して移動するために前記要素のそれぞれの隣接する端に蝶番により接続されている請求項１２ないし１４のいずれかによる腰椎支持具。

１６．搭載手段が帯の前記端の各々に設けられ、前記帯の対応する前記端を背もたれの対応する前記側方に接続するように作動可能であり、前記要素は前記搭載手段の間に配置されている請求項１０ないし１５のいずれかによる腰椎支持具。

１７．前記駆動手段は手動アクチュエータと、該アクチュエータを前記帯に駆動可能に接続する駆動接続具を含む請求項１０ないし１６のいずれかによる腰椎支持具。

１８．前記駆動接続具は管状の覆いと、該管状の覆いの内部を軸方向に摺動可能な線芯を有するたわみケーブルを含み、前記芯の対向する両端は、前記アクチュエータと前記帯の第２の端にそれぞれ接続され、前記覆いの対向する両端は前記アクチュエータと前記帯の第１の端にそれぞれ接続されている請求項１７による腰椎支持具。

１９．前記要素が前記帯の長さ方向にわたるシリーズに配置され、前記帯の両端間のほぼ中間に配置され、前記駆動手段は前記シリーズの長さを伸縮し、それにより前記後ろ向き湾曲を変化させるように作動可能である請求項１０ないし１８のいずれかによる腰椎支持具。

２０．前記駆動手段は、前記帯の第１の端に接続された電動機と、前記電動機の作動に対応し、かつ前記電動機を前記帯の第２の端に駆動可能に接続する駆動接続具を含む請求項１０ないし１６のいずれかによる

腰椎支持具。

21. 前記駆動接続具は、回動軸が概して前記帯の長さ方向、かつ前記電動機の軸に交差する方向を向いた回動可能なねじ溝付きスピンドルと、前記スピンドルが前記電動機の作動に対応して回動するように前記スピンドルを前記電動機に接続する手段と、前記スピンドルの回動に対応して前記帯に対しその長さ方向に移動するように前記スピンドルに接続されたキャリッジと、その対向する両端が前記キャリッジと前記帯の第2の端にそれぞれ接続された、少なくとも1本のたわみケーブルを含む請求項20による腰椎支持具。

22. 前記ケーブルの一部が前記要素の背後に配置され、前記ケーブルの一部の縦軸が前記帯の縦軸とほぼ平行であり、前記要素の各々の両端間のほぼ中間に位置する請求項17による腰椎支持具。

23. 前記たわみケーブル2本を含み、その各々は前記帯の縦軸のそれぞれ対向する側に配置され、前記帯の縦軸にほぼ平行であり、前記ケーブルは前記要素の背後に、前記要素の対応する対向端に隣接して配置される請求項21による腰椎支持具。

24. 前記要素が前記帯の長さ方向にわたるシリーズに配置され、前記帯の両端間のほぼ中間に配置され、前記駆動手段は前記シリーズの長さを伸縮し、それにより前記後ろ向き湾曲を変化させるように作動可能である請求項20ないし23のいずれかによる腰椎支持具。

25. 第2の前記駆動手段を含み、該第2の駆動手段は、前記帯の第2の端に接続された電動機と、前記第2の駆動手段の電動機の作動に対応し、かつ該電動機を前記帯の第1の端に駆動可能に接続する駆動接続具を有する請求項20による腰椎支持具。

26. 前記駆動接続具の各々は、回動軸が概して前記帯の長さ方向、かつ前記電動機の軸に交差する方向を向いた回動可能なねじ溝付きスピンドルと、前記スピンドルが前記電動機の作動に対応してピボットするように前記スピンドルを前記電動機に接続する手段と、前記スピンドルの回動に対応して前記帯に対しその長さ方向に移動するように前記駆動

接続具の各々の前記スピンドルに接続されたそれぞれのキャリッジと、少なくとも１つのたわみケーブルの対向する両端がそれぞれ対応する前記キャリッジ接続された、少なくとも１本のたわみケーブルを含む請求項２５による腰椎支持具。

２７．前記少なくとも１つのたわみケーブルが、たわみケーブル２本を備え、前記ケーブルの各々の対向する両端の各々はそれぞれ対応する前記キャリッジに接続され、前記ケーブルの各々は前記帯の縦軸のそれぞれ対向する側に配置され、該軸より横方向の間隔が設けられている請求項２６による腰椎支持具。

２８．前記第２の駆動手段のキャリッジにレバーが取り付けられ、前記ケーブルの各々は前記レバーにより前記第２の駆動手段の該キャリッジに接続され、前記ケーブルの各々は前記レバーの対向する両端部の対応する方に接続され、前記レバーはピボット接続部によって前記帯の第２の端に接続されて前記帯の前後方向を向いた回動軸を中心に動き、前記ピボット接続部は前記端部の間に位置する請求項２７による腰椎支持具。

２９．前記ピボット接続部は前記ケーブルのほぼ中間に配置され、前記レバーの前記第２の駆動手段のキャリッジへの取付け部は前記ピボット接続部と前記ケーブルの一方のほぼ中間に配置されている請求項２８による腰椎支持具。

３０．前記ピボット接続部は第１の前記駆動手段のスピンドルの回動軸と方向がほぼ揃っている請求項２８又は２９による腰椎支持具。

３１．上記請求項のいずれかによる腰椎支持具を含む座席。』

以上

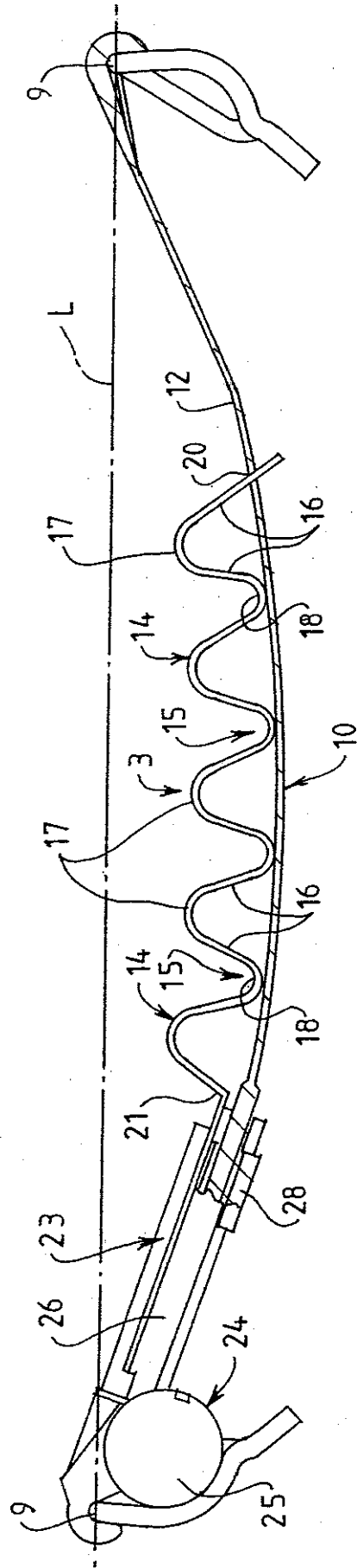


FIG 3

